

Ichthyological Research 69 巻 4 号掲載論文 和文要旨

フサカサゴ科セトミノカサゴ属 *Parapterois* (フサカサゴ科ミノカサゴ亜科) の分類学的再検討と *Parapterois nigripinna* (Gilchrist, 1904) の有効種としての再記載

松沼瑞樹・本村浩之

モノグラフ 69(4): 401–432

フサカサゴ科セトミノカサゴ属の分類学的再検討の結果, *Parapterois heterura* (Bleeker, 1856) (標準和名セトミノカサゴ), *Parapterois macrura* (Alcock, 1896), および *Parapterois nigripinna* (Gilchrist, 1904) の 3 有効種を認めた. *Parapterois nigripinna* はこれまで *Pterois heterurus* Bleeker, 1856 の新参異名と考えられていたが, 眼の下の白色帯が波線または破線 (複数の白色点となる) 状であること (同属他種では直線的な実線状), 胸鰭の腋部に多数の白色点があること (無い) から 2 種と容易に識別される. *Parapterois macrura* は *Pa. heterura* とよく似るが, この 2 種は複数の体各部のプロポーシオン, 眼と吻膨状部の頂点または背鰭起部との位置関係 (前者では成長に伴って眼の位置が著しく上方に向かって移動する), および頬部の鱗の後縁に付く小棘の数によって互いに識別される. *Parapterois heterura* はインド洋東部から日本を含む太平洋西部に広く分布する. 一方, *Pa. macrura* と *Pa. nigripinna* の分布域は, それぞれアラビア海・ラッカディブ海, とインド洋南西部 (モザンビーク・南アフリカ沿岸) に限られる. 日本から記載された 4 名義種, *Pterois jordani* Regan, 1905, *Ebosia starksi* Franz, 1910, *Pterois tanabensis* Tanaka, 1918 および *Ebosia pavo* Schmidt, 1931 は, いずれも *Pt. heterurus* の新参異名と判断した. また, 南アフリカから記載された *Pterois natalensis* von Bonde, 1923 は, *Pt. nigripinnis* の新参異名であることが判明した. 本論文では *Pt. macrura* と *Pt. nigripinnis* のレクトタイプを指定し, 本属の種の検索表を示した.

(松沼: 〒631-0052 奈良市中町 3327-204 近畿大学農学部環境管理学科; 本村: 〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館)

旧ヨロイアジ属とその近縁属の属階級の分類学的再検討

木村清志・武内 俊・宿女太志

モノグラフ 69(4): 433–487

アジ科旧ヨロイアジ属 *Carangoides* Bleeker, 1851 は 19 有効種を含むとされてきたが, これまでも分子系統学的研究によってその単系統性が否定されてきた. 本論文では, 旧ヨロイアジ属とその近縁属 (イトヒキアジ属 *Alectis* Rafinesque, 1815, クボアジ属 *Atropus*, Oken 1817,

クロアジモドキ属 *Parastromateus* Bleeker, 1864, *Selene* Lacepède, 1802, ヒシカイワリ属 *Ulua* Jordan and Snyder, 1908, オキアジ属 *Uraspis* Bleeker, 1855) を分子系統学的方法と形態学的方法に基づいて 15 属に再構成した。旧イトヒキアジ属は *Alectis* [構成種：イトヒキアジ *Alectis ciliaris* (Bloch, 1787)] と *Scyris* Cuvier, 1829 [構成種：*Scyris alexandrina* (Geoffroy St. Hilaire, 1817), ウマヅラアジ *Scyris indica* Rüppell, 1830] に分かれた。*Carangoides dorsalis* Gill, 1863 [*Carangoides otrynter* (Jordan and Gilbert, 1883) は本種の新参異名] および *Selene orstedii* Lütken, 1880 をタイプ種として、それぞれ新属 *Euprepocaranx* と新属 *Paraselene* が設立された。ヒラマナアジ属 *Selene* Lacepède, 1802 は有効で、従来の 6 種から *Selene orstedii* を除いた 5 種で構成される。クボアジ属はクボアジ *Atropus atropus* (Bloch and Schneider, 1801) のほか、これまでヒシカイワリ属とされていたヒシカイワリ *Atropus mentalis* (Cuvier in Cuvier and Valenciennes, 1833) と *Atropus aurochs* (Ogilby, 1915), および旧ヨロイアジ属のヨロイアジ *Atropus armatus* (Forsskål in Niebuhr 1775) とリュウキュウヨロイアジ *Atropus hedlandensis* (Whitley, 1934) の 5 種で構成される。新属 *Craterognathus* と新属 *Flavocaranx* はそれぞれ旧ヨロイアジ属のインドカイワリ *Craterognathus plagiotaenia* (Bleeker, 1857) とコガネアジ *Flavocaranx bajad* (Fabricius in Niebuhr, 1775) の各 1 種のみを含む属として設立された。新属 *Platycaranx* は旧ヨロイアジ属の 3 種、ヒシヨロイアジ *Platycaranx chrysophrys* (Cuvier, 1833), タイワンヨロイアジ *Platycaranx malabaricus* (Bloch and Schneider, 1801) および *Platycaranx talamparoides* Bleeker, 1852 で構成される。イトヒラアジ属 *Carangichthys* Bleeker, 1852 はイトヒラアジ *Carangichthys dinema* Bleeker, 1851, *Carangichthys humerosus* (McCulloch, 1915) およびテンジクアジ *Carangichthys oblongus* (Cuvier, 1833) の 3 種を含む属として認められ、また *Ferdauia* Jordan, Evermann and Wakiya in Jordan, Evermann and Tanaka, 1927 はクロヒラアジ *Ferdauia ferdau* (Fabricius in Niebuhr, 1775) と *Ferdauia orthogrammus* (Jordan and Gilbert, 1882) の 2 種からなる属として、*Turrum* Whitley, 1932 はマルヒラアジ *Turrum coeruleopinnatum* (Rüppell, 1830), ホシカイワリ *Turrum fulvoguttatum* (Forsskål in Niebuhr, 1775), アンダマンアジ *Turrum gymnostethus* (Cuvier, 1833) の 3 種を含む属として復活した。クロアジモドキ属 *Parastromateus* とオキアジ属 *Uraspis* はそれぞれクロアジモドキ *Uraspis niger* (Bloch, 1795) およびオキアジ *Uraspis helvola* (Forster in Bloch and Schneider, 1801), インドオキアジ *Uraspis uraspis* (Günther, 1860) からなる有効属として認められた。*Carangoides* は *Carangoides ire* (Cuvier, 1833) と *Carangoides praeustus* (Anonymous [Bennett], 1830) からなる属として新たに定義された。これらの属について、識別的特徴と簡単な記載が示された。

(〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 三重大学大学院生物資源学研究所；武内（現住所）：〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀 2-4 マルキュー株式会社；宿女（現住所）：〒670-0902 兵庫県姫路市白銀町 9 番地 株式会社キョーリン）

***Lepadicyathus* Prokofiev, 2005 アマツミウバウオ属 (新称) の再定義と *Lepadicyathus minor* (Briggs, 1955)アマツミウバウオ (新称) の再記載 (ウバウオ科)**

藤原恭司・Kevin W. Conway・Adam P. Summers・本村浩之

本論文 69(4): 489–504

これまで分類学的知見が乏しかった *Lepadicyathus* Prokofiev, 2005 を再定義した。本属はウバウオ科の1亜科である *Diademichthyinae* (*sensu* Conway et al.) に含まれ、以下の特徴により他属から識別される：吻部の長さが中庸で、僅かに尖る；口裂がひじょうに小さく、吻部の先端に限られ、両顎の後方部は厚い皮膚で覆われる；鰓膜が峡部と癒合する；鰓孔がスリット状で小さく、その上端は胸鰭の上から12または13番目の軟条基部と同一水平線上に位置する；吸盤が単形型で、吸盤長は標準体長の16.6–20.4%；吸盤上の突起が平坦で、いずれもほぼ同じ大きさ；頭部感覚孔がやや発達し、鼻感覚管孔と眼前感覚管孔、および眼後感覚孔がそれぞれ2個開孔する；前鰓蓋感覚管と下顎感覚管を欠く；肛門が吸盤後縁と臀鰭起部の中間に位置し、吸盤後縁から肛門までの距離は、吸盤後縁から臀鰭起部までの距離の45.8–55.5%；背鰭・臀鰭が尾鰭と鰭膜で弱くつながり、鰭間に明瞭な欠刻がある；前上顎骨を背面から見た際、左右の骨間の前方に大きな円形の空隙がある；鼻骨が長く、前端は尖り、前上顎骨先端と背面で近接する；下顎歯が少なく（約6本）、歯列は歯骨の前方1/4の部分に限られる；基鰓骨（軟骨を含む）を欠く；下尾骨が細い空隙で上方と下方に分かれる。*Lepadicyathus* に含まれる種を再検討した結果、本属は *Lepadicyathus minor* (Briggs, 1955) のみを含む単形属であることが明らかになった。*Lepadicyathus minor* はこれまで *Lepadichthys* Waite, 1904 ミサキウバウオ属に帰属されていたが、本研究によって、*Lepadicyathus* のタイプ種である *Lepadicyathus mendeleevi* Prokofiev, 2005 の古参異名であることが明らかになった。本研究では日本産の標本に基づき、*Lepadicyathus* と *Lepadicyathus minor* にそれぞれ新標準和名「アマツミウバウオ属」と「アマツミウバウオ」を提唱した。

（藤原：〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科；Conway：Department of Ecology and Conservation Biology and Biodiversity Research and Teaching Collections, Texas A&M University, College Station, TX 77843, USA；Summers：Friday Harbor Laboratories, University of Washington, Friday Harbor, WA 98250, and Burke Museum of Natural History and Culture, University of Washington, Seattle, WA 98105, USA；本村：〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館）

飼育下におけるアバチャン*Crystallichthys matsushimae*の形態発育

松崎浩二・森 俊彰・甲斐嘉晃・平 治隆

短報 69(4): 505–512

北海道根室海峡の水深 200–300 m で採集されたアバチャン *Crystallichthys matsushimae* 3 個体 [標準体長 (SL) 287.0–319.0 mm] を人工授精し、孵化後 180 日間飼育した稚魚の形態発育を記載した。得られた受精卵は直径 4.4 ± 0.22 mm (平均 \pm 標準偏差), 受精後 157–190 日で孵化した (平均水温 3.6°C)。孵化直後の稚魚は, 10.2–13.0 mm SL で, 卵黄を有しているが, すでに発達した腹吸盤を持ち, 脊索末端が上屈し, 各鰭条数, 脊椎骨数, 鰓耙数および鰓条骨数が定数に達していた。本種の成魚は三尖頭歯を有するが, 孵化直後では上顎に 2 列、下顎に 3 列の円錐状歯が確認され, 明瞭な三尖頭歯が確認されたのは孵化後 180 日 (33.1–34.4 mm SL) であった。また, 孵化後 110 日 (20.7 ± 0.6 mm SL) に吻部, 上顎, 下顎に瘤状の隆起が確認され, それらは成長に伴って伸長し孵化後 180 日 (33.2 mm SL) でヒゲ状になった。本研究は, クサウオ科スイショウウオ属で初めての形態発育の知見である。

(松崎・森・平: 〒971–8101 福島県いわき市小名浜字辰巳町 50 公益財団法人ふくしま海洋科学館・アクアマリンふくしま; 甲斐: 〒625–0086 京都府舞鶴市長浜 京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所)